

青山学院大学 ボランティアステーション 活動報告

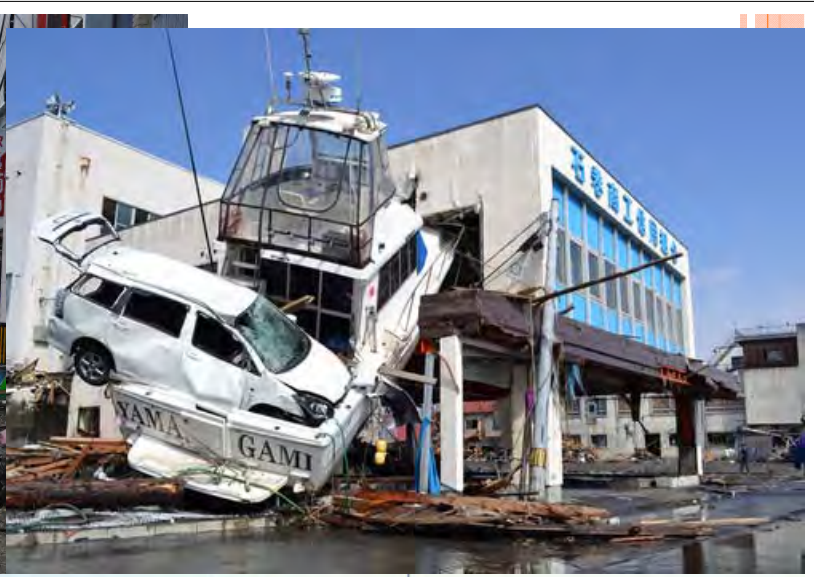
AGUボランティアステーション顧問 塚本俊也

学生副代表 近藤 圭



石巻





- 発災後、大学で緊急支援委員会が発足、その委員会でボランティア・ステーションの発足が承認され、スタッフを募集。70名のスタッフが集まる。
まず、ミッションと目標を策定し、活動計画をたてる。
- 【ミッション】
ボランティアステーションは社会に貢献したいという思いを持つ学生に対し、社会のニーズに合ったボランティアを提供し、私たちが「地の塩、世の光」となり助け合って生きる世界を目指します。

【目標】

- 1、3SMILES(青学を、日本を、世界を笑顔に)を心がけ、行動します。
- 2、将来起こり得る災害や問題を想定し、ボランティアコーディネート出来る人材になります。
- 3、社会で起きている問題に対して主体的に向き合い、行動できる人材になります。
- 4、社会において、人と人・地域と地域・意思と意志をつなぐ架け橋となり、多くの希望を生み出していきます。



→ AGUボランティア・ステーションは、災害だけにとどまらず平時から社会に在る様々な問題にアプローチ出来る団体になることを目指しています。

今年度は3月11日に発生した東日本大震災に対するボランティアを中心に活動。

- 塚本教授のご指導のもと、学生主体で運営を行う。



<課の作成>

- プログラム企画課

自主企画のボランティア等を行う際に中心となって企画を考える

- ヒューマンリソース課

ボランティア登録している学生の情報管理、ボランティア募集の発信

- ボランティア派遣情報課

他団体と共同で行うボランティアの運営

- 広報課

ボランティア募集時の文書作成、渉外（プレスリリース）、報告書作成、ブログ・twitterなどSNSの管理

- ・説明会の実施

- →900人程の登録者

- →この登録メンバーに対してボランティアを紹介し夏季ボランティアを実施



<被災地における夏季ボランティア>

1、自主企画

2、他団体との協力

○ <自主企画>

○ ・石巻 6週間、商店街街路の復興支援(ブロックの再利用、竣工式)

○ ・多賀城 4週間、留守宅児童学級の子どもへの学習支援、遊び相手、4つの学級に派遣

○ ●point

○ コーディネーター(4週間派遣)

○ 学生の参加方法(1週間単位)

石巻における青学のボランティア活動



石巻商店街街路復興支援



竣工式(10月2日)



多賀城における学童支援



- <他団体との協力>
- ・山元町 (NGO:ADRA Japan)
- 炊き出し、足湯



- ・大船渡(NGO:Child Fundに派遣)
- 9週間、仮設のコミュニティー形成 (ベンチ作り、ご飯作り、学生への学習支援)



- ・気仙沼(階上中学校)
- 1週間、中学生への学習支援



○ <東京における活動>

- ・防災パーク NHK主催イベントで、子どもに分かりやすい防災クイズを実施
- ・報告会
- 報告書の作成



東京でもできる被災地支援

・写真洗浄ボランティア(陸前高田)

被災したアルバムの再生、FUJIFILMの協力

・学習支援ボランティア

12月末～、En(OGのつながり)、大学受験生を対象に勉強の指導や進路相談を行う



地元の方々からのヒヤリング調査



現場からの復興を目指して（山形大学の資料から）

現場のアセスメントから、石巻で生きる人と、当事者意識を持って同士と共に集まるメンバーを繋げて経済復興を目指す。

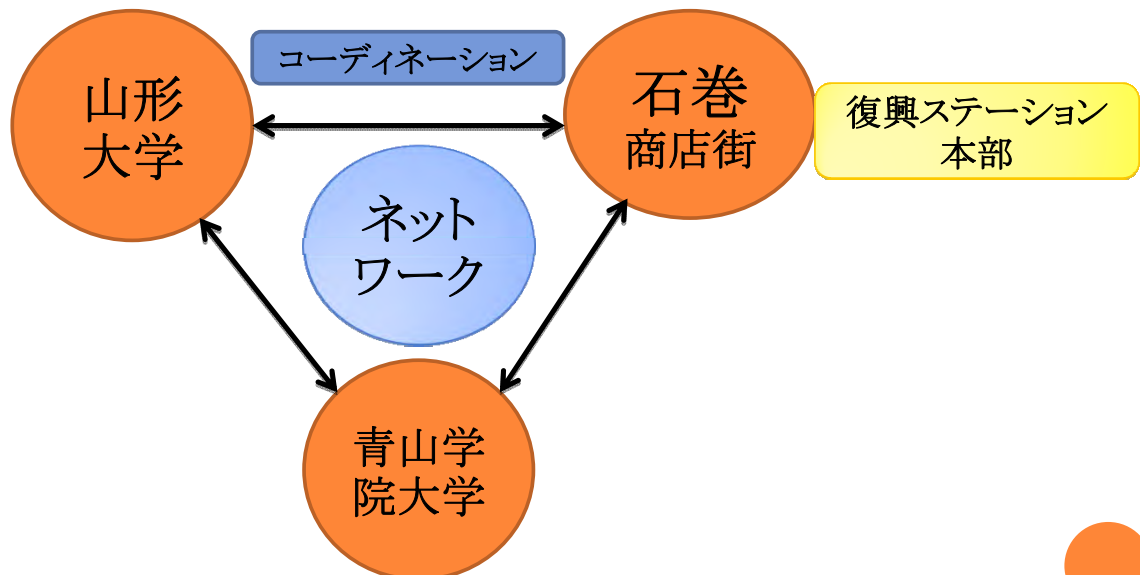
※組織的な視点ではなく、ひとりひとりの生活視点でソーシャルネットワークを活用した活動にする。大企業、官公庁、大きな組織前提ではない。地元の生活者と地域、ネットワークに注目した活動にする。



今後の復興支援計画

今後は、ハードの復興支援から商店街や石巻市への継続的なソフトの復興支援を計画中

1. 石巻復興ステーション計画(案)



石巻復興ステーション

石巻の商店街内に復興ステーションを設け、下記のような企画を行う。

①「震災を忘れない！」ために、石巻でスタディー・ツアーを企画。修学旅行、企業、一般の方々に石巻に来て、震災の様子、復興の段階を確認し、被災した方々に津波や被災した様子を語っていただく。現場で防災教育なども盛り込んだプログラムを計画中。

石巻(本部)－山形大学－青山学院大学の連携で実施。山形大は、石巻に近いので、現地のコーディネート
青学は、関東で、学校や、企業、そして、旅行会社などのマーケティング調査や説明会などを開き、事業を紹介する。

上記のほかに・・・

石巻復興ステーションの構想

- ①展示・コミュニティスペースの開設
- ②復興に関する展示イベントの実施
- ③震災を学ぶまち歩きスタディツアーの実施
- ④防災や石巻の魅力を学ぶワークショップの実施
- ⑤石巻の特産品を商品開発・製作・販売
- ⑥青山学院大学、山形大学からボランティアを派遣することにより、大学と被災地との協働の精神で実施に当たる。

裂き織技術使って新しい製品を作製

- 石巻では多くの反物が被災し、使えなくなっており、それをある程度洗浄し、細かく切り裂き、東北が発祥の裂織を用いて、バックやコースターなどを再加工する産業を仮設住宅の女性の内職として、ビジネスラインにのせられないか検討する。



大学周辺の自治体と連携

- 相模原市・渋谷区の危機管理室との連携し、首都圏で有事の際に被災者への支援、また避難所でのボランティアとして避難所で被災者の支援を行う。
- 関東・首都圏の地震などの有事の際、青山学院として積極的に大学周辺の被災者、救助の必要な方々に対して支援できる人材の養成を行いたい。
- また、自治体と調整し、大学周辺の避難所での運営補助、または管理ができる人材を育成し、大学としての社会貢献を考えていくのも、今後の大学の役割ではないかと思う。